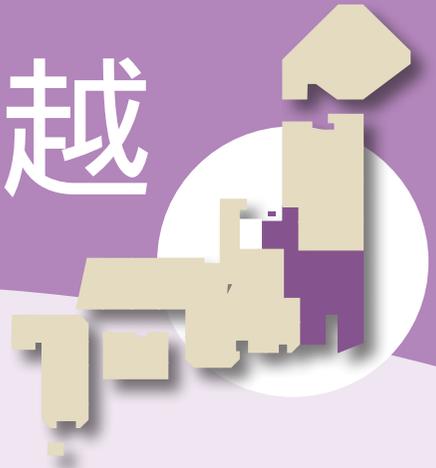


# 関東・甲信越



茨城県	坏 浩さん		パークゴルフ	12
栃木県	藤沼幸子さん		弓道	13
	小島正紀さん		グラウンド・ゴルフ	14
群馬県	小幡 普さん		ウォークラリー	15
	丸山 徹さん		ラグビーフットボール	16
千葉県	白井栄子さん		弓道	17
	蜂須政利さん		ソフトボール	18
東京都	小室廣明さん		テニス	19
	武士典央さん		ソフトテニス	20
神奈川県	千種正男・米子さん		ダンススポーツ	21
山梨県	大久保一雄さん		ペタンク	22
長野県	小越尚子さん		水泳	23
さいたま市	森田益行さん		ウォークラリー	24
	石田達雄さん		テニス	25
横浜市	松岡 徹さん		健康マーじゃん	26



## パークゴルフ 「大洗」チーム(選手代表)

あくつ ひろし

坏 浩さん 79歳 ●参加歴：2回目

### 仲間が受賞！ 決起会で気持ちを高めて大会へ

私はねんりんピック北海道・札幌2009に参加しており、今回は2回目の参加となります。総合開会式前日に東京駅に集合し、新幹線と貸切バスで開催県を目指し移動しました。前泊の宿泊施設では茨城県選手団が一堂に会し、決起会が開催されました。大会への意気込みなどを話し、気持ちが盛り上がりました。

翌日は早朝に宿泊施設を出発し、総合開会式会場へ移動しました。開会式では北海道選手団から順に入場し、本県は福島県選手団に続いて行進をしました。メインスタンドに差し掛かったところで、紹介アナウンスに合わせて全員で帽子を取り、メインスタンドに向かって振りながらアピールをしました。スタンドを見上げると観覧者の多さに感動しました。その後、スタンド席へ移動すると、正面に雪をかぶった立山連峰を望むことができました。

翌日からはいよいよ交流大会ですが、パークゴルフは4日が練習日、5日が交流大会で、射水市の会場へ向かうと大会関係の皆様が歓迎され、富山県の皆様の温かさを感じました。大会当日、会場には全国の選手133名が集合し、地

元の子供たちによるアトラクション後、開始式と交流大会が行われました。

パークゴルフは1983年に北海道幕別町の小さな公園の芝生で誕生し、「自然を大切に」「三世代交流のスポーツ」「安全で楽しいスポーツ」という要素があります。多くの人が集い賑わってこそ公園の意味があり、そこにふさわしいスポーツとしてパークゴルフを創造したそうです。

試合の結果、個人戦、団体戦ともに富山県の選手が上位を占め、残念ながら入賞はかありませんでした。しかし、同じチームの小松崎選手が最高齢者賞(女性)、大川選手が高齢者賞(女性)を受賞しました。

最終日は、チームメンバーで五箇山の相倉合掌造り集落と瑞泉寺を観光しました。昼食には、富山湾でとれた新鮮な魚を食べ、帰路につきました。大会に参加し、選手との交流を通して楽しむことができました。また、関係者の皆様の温かさを感じたり、観光名所や食べ物などを楽しんだり、全国持ち回りで開催されるこの大会の醍醐味を感じました。

結びに、主催者および大会関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。



チームの集合写真。(左から2人目)



寝食を共にし、メンバーとの絆も深まった。(左)



## 弓道 「栃木県」チーム

ふじぬまゆき こ

藤沼幸子さん

88歳

●参加歴：5回目

### 一生一事一貫 ——人生とは一生に一事を貫くこと

私は学生時代、弓道の姿に憧れ弓道部に入学しましたが、すぐに終戦となり、弓具は武器として没収されてしまいました。それから就職し定年後、憧れの弓道場へ行き入部しました。若い方や素晴らしい先輩、立派な先生に教えをいただいたおかげで、とやま大会の県代表選手として、88歳、今回で5度目のねんりんピック出場となりました。

11月の富山はさぞ寒いだろうと、ダウンを着込み大きな荷物を背負って宇都宮駅を出発しました。雄大な立山連峰を眺め、富山駅に到着。なんと汗ばむ暖かさで私たちを迎えてくれました。その後はバスに乗り、ホテルに到着。夕食は魚をご馳走になり、コップのコースターに「たくさんあるホテルの中、当館を選んでくれてありがとうございます」という手書きのメッセージがあり、もてなしに感激しました。

総合開会式では、富山県総合運動公園陸上競技場で越中太鼓の鳴り響く中、国旗を掲げ諸先生方のご挨拶をいただき、地元の人々や可愛い応援サポーターと交流し感動しました。大きな画面に選手団が映し出されたときには、とやま大会に向けてやる気満々になりました。会場では富山銘菓がずらりと並び、試食をしました。地元の越中おわらも拝見。大拍手でした。その後、小杉文化センターで弓道の開会式に参加し、前座の小杉爆笑劇団の介護予防・

認知症・高齢者との接し方等、弓道を通して面白く楽しく・分かりやすい寸劇を拝見し爆笑しました。市長をはじめ歓迎のお言葉をいただき、最高齢者・高齢者特別賞の表彰を受け、賞状・楯・記念品をいただきました。表彰の際、壇上で緊張して涙が出てしまいました。

大会当日、大島弓道場では胴着一枚でも熱気が伝わってきました。ここでも大画面で射場内の選手達の様子が拝見でき、見惚れました。以前の大会で一緒だった選手の方と再会し握手をしましたが、その傍らで「また来るの」と他の方に冷笑されました。それでも、「職場には定年があっても、人生に定年はない。いくつになっても自分で舵を取り続ける生き方、明日がある限り未来がある！」を心に、丹田に力を入れて射場に入り、大きな拍手をいただきました。

とやま大会では練習の成果を発揮できず残念でしたが、お世話になったとちぎ健康福祉協会の役員の方々、富山県の皆さんに心から感謝し御礼を申し上げます。次回の優勝を夢見て、日々練習を重ね生涯現役に励んでいきたいと思います。



凛々しい姿で弓を引く藤沼さん。



試合前で緊張の面持ち。(前列右から2人目)



## グラウンド・ゴルフ 「栃木県」チーム

こじままさのり  
小島正紀さん 73歳 ●参加歴：1回目

### 長年の夢を達成！ピンチを乗り越え逆転優勝

天高く澄み切った青空、はらかな北の方向に冠雪した、美しい立山連峰。このような絶景の中、ねんりんピック富山2018の総合開会式が富山市で開催されました。

栃木県選手団は、右手にイチゴの風船を掲げ、旗手の私を先頭に堂々たる行進でした。石井富山県知事が「富山県は年間を通して天候の悪い日が多く、今日のように日本晴れで立山連峰も鮮明に見える日は少ない。私たち富山県民は心から歓迎いたします。どうか皆さんの思い出の一頁になればと思います」と挨拶をしたことが印象に残っています。富山県民の歓迎の催しが素晴らしい総合開会式でした。

グラウンド・ゴルフ大会は場所を変え、高岡市にある高岡西部総合公園で開催されました。屋内の人工芝グラウンドで行われた競技開会式で、栃木県のグラウンド・ゴルフチームは、政令指定都市を含め約390名の選手と競うことがわかりました。交歓ゲームは、男性260名で8

ホール×3ラウンド＝24ホール（11月4日に2ラウンド、5日に1ラウンド）となり、私が対戦した兵庫県の選手は強敵でした。11月4日終了時点では、1打差で負けていました。翌11月5日には、初めから2回連続でホールインワンを達成し、そのまま調子を落とさず8ホールを11点で終了。2点差をつけて優勝しました。強敵であった兵庫県の選手から「栃木県の小島選手は、大変ピンチに強い人で驚いた」と言葉をかけてもらいました。振り返れば、私は大変幸運であったと思います。

「明るく 楽しく 元気よく」をモットーに、地元の上三川町グラウンド・ゴルフ協会の会員の皆さんと地道に練習を積み重ねてきましたが、長い年月の夢を達成でき感無量です。これからも、「地域の振興と活性」「健康と体力の増進」「技術の研鑽」に努力する所存です。大勢の人から、心温まる激励をいただき、ありがとうございました。

また、とやま大会では全国の選手と交流を深めて参りました。別の大会でいつかまた会うことが楽しみです。結びに、栃木県グラウンド・ゴルフ協会、上三川町グラウンド・ゴルフ協会の皆様へ感謝申し上げます。



堂々と栃木県旗を持つ小島さん。



プレイ中、真剣な表情。



## ウォークラリー 「名月赤城山」チーム

お ば た す す む

小 幡 普 さん

77 歳

● 参加歴：3 回目

## 坂の多い難路に苦戦を強いられるも無事に完歩

11月2日、群馬県選手団139名は、高崎駅に集合し北陸新幹線「はくたか」に乗り、黒部宇奈月温泉駅で下車し「宇奈月温泉延対寺荘」で宿泊しました。お肌ツルツルの美人の湯に浸かり、飲み放題で一夜を過ごしました。

総合開会式では、群馬県は小旗を持って選手団入場行進をし、約一時間半の間、素晴らしいアトラクションと集団演技を鑑賞し、堪能しました。又メインナビゲーターは富山市出身の女優の柴田理恵さんが務め、司会者と共に式典を進行し、会場を盛り上げてくれました。

終了後は、ウォークラリー会場のある「立山温泉グリーンビュー立山」に宿泊し、再度お肌ツルツルの温泉で英気を養い、翌日の大会に備えて早寝をしました。

大会当日は晴れ時々曇りの天気で、バスで大会会場のグリーンパーク吉峰よしみね交流館前に到着。受付でゼッケンナンバー「4」をもらい、野外テントの指定席に陣取りました。群馬県のアテンダーは、弓道部に所属する中学1年生で、全コース同行し明るく振る舞ってくれました。

立山コースの10時3分4番目のスタートで平均77歳の「名月赤城山」チームがスタート。林業試験場樹木園の中を紆余曲折ありながら、26のコマ図中に13のチェックポイント（CP）を回答して進みました。ところがCP5あたりから完全な上り坂になり、昨年の平地と違い、息も絶え絶えになりました。高齢の高山清平さんも休み休み、足の痛みを感じながらよく頑張ってくれました。CP6、7を過ぎると下り坂になり、階段は浮き上がる木材に足が引っかけられないよう、支え合いながら奮闘しました。今年のゲームは輪投げでしたが、なかなか難しく点数になりませんでした。約2時間20分をかけてゴールしましたが、司会者の実況放送やスタッフの拍手やかけ声もあり、賑やかに元気よく戻ることができました。表彰式では、89歳の高山さんが最高齢での表彰をもらい、参加者、スタッフから大拍手と喝采が起きました。チーム成績は立山コース22チーム中19位でしたが、素晴らしいロケーションの中楽しく完歩できたことに、感謝申し上げます。



平均年齢77歳のチームメンバーとともに。(右から2人目)



## ラグビーフットボール 「群馬惑惑倶楽部」

まるやま とおる

丸山 徹さん

65歳

● 参加歴：5回目

### 新人が大活躍！ チームに可能性を感じた大会

全国からの選手約1万人で盛大に行われた開会式後は、交流会場で伝統芸能のショーを見て過ごした。若い女性が生き生きと和太鼓を叩く姿に感動し、「おわら風の盆」という踊りでは地元の高校生が三味線と物悲しい胡弓の調べに乗せて編み笠で顔を隠し、やわらかな手の動きだけで表現しているのが、優美で涙があふれた。

3泊した北山鉱泉では、きときと（富山弁で「新鮮」）な海の幸をはじめとした食事を楽しみ、毎晩酒が進んだ。

最近の我がチームはボックスのスピードに優れ、オープンに回せばトライできたのだが、初戦の福井県のチームはよく走り、70代の黄色パンツの方に抜かれそうになったり、うちの快速ウイングが独走中に追いつかれてタックルされ、肩を怪我して退場し、残念ながら次戦も出場できなくなってしまったりした。しかし、今回の我がチームは新人の若手3名を中心によく走り、縦・縦の攻撃でつないで3本のトライをあげ、17-7で勝つことができた。私はというと、以前から右脚の股関節を痛めているうえに腰がひどく痛んで満足なプレイができず、みんなに迷惑をかけるからと途中交代してしまった。きっと明日こそ！

2日目の最終試合は、富山県の選抜チームが開催県のプライドをかけて群馬を蹴散らして大会を締めくくるつもりだと思えた。いっ

そう気合を入れた我がチームは、フォワードがオーバーザトップの反則を取られるくらいの勢いでボールを奪取したり、ボックスもハードタックルで倒したりして頑張り、3本のトライをあげて19-0と相手を完封。新人が活躍したおかげで、中心選手のトライがなくても勝つことができた。このチームはきっと明日はもっと強くなれるだろう。来年の和歌山大会ではラグビーが開催されないのが残念だが、再来年のぎふ大会ではもっと良い試合ができるだろう。ところで私はというと、前日より頑張れた。そして試合も終わりが近づいたころ、縦の攻撃が成功し相手のゴール前まで迫ったときに、ボールが私のところへ回ってきた。ボールを抱えたまま目の前の相手に体当たりして跳ね飛ばし、そのままトライラインに飛び込んだ。やっとそれらしい仕事ができ、面目を保つことができた。

帰路は立山黒部アルペンルートを通り、劔岳など北アルプスの雪山もくっきりと見ることができた。巨大な黒部ダムので堰堤を歩き、その大きさや放水の威力を味わえた。



相手のタックルをはね飛ばす気迫あふれる丸山さん。(中央)



帰路で立ち寄った黒部ダムにて。(後列右から2人目)



## 弓道 「千葉県」チーム

しら い えい こ

白井 栄子 さん

93 歳

● 参加歴：2 回目

### 週3回、共に励む仲間を支えに、93 歳で出場

2017年9月に弓道のシニア大会が千葉県総合スポーツセンター弓道場で開催されました。参加者230名中ただ1人六射皆中で優勝し、表彰式で新倉喜代司顧問より「最高齢者でこの結果は素晴らしい。この一言に尽きる」と称されました。私自身、どのような射を引いたのか全然思い出せません。しかし、午後の四射を引き終わったとき一斉に拍手をいただき、初めて皆中したのがわかりました。2018年の2月にとやま大会への出場の話がありました。8月に選手の発表があり、結団式で選手宣誓の大役を任せられました。不安はありましたが、社会福祉協議会の方のご指導で、戸惑いながらもなんとか無事にやり終え、ほっといたしました。

11月2日早朝の出発で、北陸の富山は寒いと想像していましたが、暖かすぎるくらいの天候でした。「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」のテーマのごとく、明るく温かく迎えられ、3日は快晴の青空のもと開会式に参列しました。参加者は1万600人くらいとのことでした。千葉県は15番目に入場し、メインスタンドからの歓声に、県花の「菜の花」をふりながら応えました。参加者の皆さんが澁瀾と行進する姿、さらには2時間の開会式の間ずっと整列されている姿に、普段から心身を鍛えていると感激しました。

その後、夕方から射水市

での開始式に参加し、市長や名士の方々から激励のお言葉をいただきました。続いて、93歳の私は最高齢者として立派な楯と賞状、それに特別賞として射水市特産のベニズワイガニの目録をいただきました。

11月4日・5日の競技では、チーム5人の力が及ばず、残念ながら決勝進出となりませんでした。結果は出せませんでした。大会後宿に戻り、ホテルから雪の立山連峰が夕日に映える姿を見て、最高の思い出を作ることができました。

豊かな自然の中で家庭菜園や趣味の花作りなどをしながら、自宅の弓道場で地元の大学生や日中仕事で練習できない方たちと、夜7時～9時まで、週に3回練習しています。これが心の支えとなって、日々を過ごしています。苦しい道のりもありましたが、弓道の発展のために目標を高く持ち、頑張っていたら弓の先生方、多くの弓友に支えられ、今日を迎えられたことを心より感謝申し上げます。最後に、ねんりんピックの今後の益々のご発展を祈念申し上げます。



狙いを定め、矢を放つ瞬間。



結団式で選手宣誓をする白井さん。



## ソフトボール 「浦安シニアソフトクラブ」(監督兼選手)

はちすまさとし

蜂須政利さん

81歳

●参加歴：3回目

### 憧れの場、ねんりんピックを目指して頑張れ！

私たちシニアソフトボール・チームは、千葉県内各市のシニアチーム12チームで、千葉県シニアソフトボール連盟を結成し、毎年各チーム2試合の総当たりのリーグ戦を実施しております。

我が浦安チームは、2003年の徳島大会・2010年のいしかわ大会に出場し、今回で3回目となりました。各大会共に、地方色豊かな特長がありました。今回は、富山駅の改札口を出た所で、チンドン屋さん達に迎えられてビックリしました。そういえば、富山県はチンドンコンクール大会が行われる事を思い出しました。

チンドンに迎えられた後、新湊きつときと市場で昼食し、買い物後、海王丸パークで帆船海王丸の中を見学したり、楽しかったです。

1日目の宿泊は魚津駅前のホテルで、夕食は近くのホテルに移動し、各種目の選手が種目別に壇上に上がり抱負などを述べ、皆さん楽しんでおりました。

翌日、富山県総合運動公園陸上競技場に移動し、総合開会式に臨みました。北海道より順番に、各県それぞれ趣向を凝らした入場をしており、最後は地元の富山県が行進し最高潮に達しました。開会式終了後、アトラクションの途中で監督会議が行われる富山県総合体育センターに移動し、会議終了後、同体育館で行われる開始式に出席しました。式典終了後のアトラクションが、チ

ンドンの演奏および越中おわらの唄と踊りで大変素晴らしく、他県の選手たちも感動しておりました。特に、越中おわら節の踊りがスローかつ優雅で私も感動しました。毎年9月に越中おわらの行事が行われるとの事で、かなりの人達が見学に来る観光名物だそうです。

2日目からの宿泊は呉羽ハイツで、富山市の中でも山岳地区と思われる場所でした。夜の野天風呂から一望できる富山市の夜景が素晴らしかったです。翌日より試合が開始され、1回戦で残念ながら敗戦となりました。翌々日に負けチーム同士で対戦し、最終回まで勝っていましたが、逆転負けになり残念でした。2試合とも負けましたが反省するところもあり、これからの課題と思います。

最後に、ねんりんピックはお年寄りの国体で、競技をしているすべての高齢者にとって憧れの場だと思います。私は今回が最後と思いますが、これからの皆様は頑張ってねんりんピックを目指してください。ありがとうございました。



選手団副団長と決意を新たに。(右)



浦安チームで熱戦を繰り広げた。(前左列から4人目)



## テニス 「東京都B」チーム

こむろひろあき  
小室廣明さん 62歳 ●参加歴：2回目

## こころもカラダもお腹も&amp;観光も満喫！

いや～、素晴らしい開会式でした！

快晴のもと、雪化粧を始めた立山連峰の眺望やさまざまな競技の選手団1万人以上の入場行進、趣向を凝らしたアトラクションにおもてなし等、フェスティバル感の溢れる開会式でした。

「想像力豊かな」は子どもに係る枕詞ともいえますが、どっこい、年齢を重ねてきたシニア世代にも転寝（うたたね）しながら夢と現実のはざまをさまようという特技（!?）、もとい、経験と現実を融合させてより強い現実感を創り出すという“夢力”があるのです。間近に迫った2020年の東京オリンピック。開会式の映像を目にした時に「ウン、ウン、わかる！グラウンドからスタジアムを眺めた時の景色や歓声、感動と高揚感！」と、より臨場感を伴って見入ることでしょう。気分はすっかり“オリンピック”です。

「ねんりんピック」は長崎での大会に続いて二度目ですが、実は開会式が一番の楽しみでした。開催県ごとに特徴のある演出はとても楽しく、豪華で素敵なエンターテインメントです。そして、期間中の楽しみ方にもちょっと工夫を。利用する交通手段をアレンジして、観光などの時間を多くとりました。

路面電車に乗って富山大学に行き、豊富なメニュー&リーズナブルな学食で美味しくランチ。帰りはブラブラ歩きながら、富山城公園や市役所展望台なども回りました。

開会式の夜は、メンバーの知り合いのついで穴場的な寿司割烹のお店でコース

料理に舌鼓。（お酒はほどほどにしてガマンです）

テニス交流大会では接戦をものにして勝ち進み、勝敗はもとより、沢山の試合を楽しめたことに大満足。おまけに、優秀賞のメダルもいただいで嬉しさもひとしおでした。

最終日はカナルパークを散策して、美しいロケーションにあることで有名なカフェのテラス席でコーヒータイム。それから閉会式を観覧。富山県出身の音楽家が歌う『少年時代』『ふるさとの空』、スクリーンに映し出される富山のふるさとの風景。それを眺めながら聴いているうちに、目頭が熱くなってしまいました。シニア世代にとって、子どもの頃の思い出は宝物。蘇る懐かしさに涙腺が刺激されたようです。でも、この涙は心地よいカタルシス。交流大会で昂った気持ちも静めてくれたように思います。

こころもカラダもお腹も、そして観光も満喫できた「ねんりんピック」でした♪

ア～、また参加したいナ～！



総合開会式会場にてグラウンドを背景に撮影。



## ソフトテニス 「東京都 A」 チーム (監督兼選手)

たけし のりお

武士典央さん

61 歳

● 参加歴：1 回目

## 「とやま大会」 圧巻の開会式とブラックラーメン

この大会に出てみたいと思いついたのは、前年のあきた大会に参加した学生時代の女子先輩の感想を聞いたのが発端でした。そして2017年10月の東京都の予選に参加、運良く1位通過し、今回男子ダブルス代表として参加することができました。

11月3日、秋晴れの富山県総合運動公園陸上競技場で行われた総合開会式は、地元紙の号外に「富山に集う円熟の輝き」「全国47都道府県からシニア1万人が富山に集まった」と紹介されるほど見事なものでした。その開会式で私は幸運にも総勢271名の東京都選手団の旗手という大役を務めさせていただきました。東京都選手団結団式で小池百合子都知事の目の前で受けとった団旗を掲げ、炬火台のバックに広がった雄大な立山連峰に見守られながら入場行進した貴重な体験は、決して忘れることのない思い出となりました。

翌日からソフトテニスは高岡で交流大会が行われ、ミックスダブルス・男子ダブルス・女子ダブルス3ペア6名1チーム、東京都はAとBの2チーム総勢12名で参加しました。

予選リーグは、A・B両チームともに3戦全勝で予選第1位で通過、「決勝トーナメントではA・B同士で決勝だ!」と誰もがそんな気持ちになっていました。ホテルに戻るバスの中で「今夜は皆がそろそろ最後の晩、今日の勝利と明日の健闘を祈って乾杯しましょう!」と大いに盛り上がりました。全員で居酒屋へ行く

ことになり、皆の士気も上がり明日に向けていい時間を持つことができました。

ところがそこで解散のはずが、「どうしても有名なブラックラーメンが食べたい!」という誘惑に負けた数名が、閉店しようとしていたラーメン屋さんをお願いして入店し、ラーメンと餃子と生ビール2杯ずつを注文、これが本当にうまかった!

こうして十分に士気を高め翌日の試合に挑んだ我々でしたが、決勝トーナメントは残念ながら初戦敗退! 優勝はできませんでしたが、A・Bチームともに優秀賞を受賞しました。

富山という素晴らしい土地で天気にも恵まれ試合に参加できたこと、皆でチームを盛り上げ戦えたこと、そして美味しいブラックラーメンを食べたこと(?)も良い思い出になりました。

最後に大変お世話になった東京都・富山県の大会関係者の皆さん、富山県民の方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。



都知事から受け取った団旗を掲げ行進する武士さん。



## ダンススポーツ 「チーム神奈川」

ちぐさまさお よねこ  
千種正男・米子さん 79歳 / 77歳 ●参加歴：1回目

### 力を発揮し、決勝戦まで進んだ夢のようなとやま大会

2人合わせて156歳、ダンスを始めて10年の私共が、初めてのねりんピックに参加しました。

ダンス団体戦は、チャチャチャ、ルンバ、ワルツ、タンゴの4種目で競われます。私共はタンゴを担当しましたが、他の3種目の方々はA級選手、私たちC級よりずっと若くて上手です。初対面で「決勝まで行きましょう！」と発破をかけられて、ドキドキしました。「ねりんピックなので、楽しく気楽に」と考えていたので、正直言って、「これは大変なことになった」と思いました。

「今持っている力を精一杯出すしかない」と2人で覚悟を決めました。大会前に練習会を開いて、監督がつきっきりで、厳しくも温かく指導してくださり、大会期間中も常に見守ってアドバイスをしてくださいました。仲間の応援もあり、みんなの力で1次予選、2次予選、準決勝と勝ち進み、なんと決勝へ進出できました。49チーム中6位に入賞し、メダルを首に掛けていただき、まるで夢のようでした。監督、チームの皆さんのお陰で、幸せな思い出となりました。

開会式は、晴天の下、雪化粧した立山連峰を望む会場で、1万人の入場行進が盛大に執り行われ、まるでテレビで見るオリンピック

のようでした。富山の自然を、映像やダンス、伝統芸能で表現するアトラクション。地元の小学生がプラカード係、おもてなし係を務め、歓迎の横断幕を準備して盛り上げてくれました。

大会終了後も、泊まった宿で、観光中の街中で、ユニフォーム姿の参加者に声を掛けたり、掛けられたりと交流を楽しみました。

ダンスが開催された氷見市では、市長が氷見市ゆかりの万葉歌人・大伴家持に扮してダンスを披露したり、街を挙げて大歓迎してくれました。富山湾を隔てた対岸の立山連峰に昇る日の出は、息を飲むような荘厳な眺めで、天然のいけすと呼ばれる富山湾で取れる海の幸も堪能しました。

交流会終了後、訪れた富山城では戦国の歴史に思いを馳せ、市庁舎の壁、駅周辺の街路柱に飾られた色とりどりの歓迎の花籠が嬉しかったです。地元の魅力を知り、温かいおもてなしを受け、全国各地から集った仲間たちとの触れ合いを通じて、「来てよかった」としみじみと思える「思い出に残るねりんピック」でした。

ダンスに参加した最高齢者が86才でした。私共も、「健康に気を付けて、ダンスの練習に励んで、何年後かにまた参加したいな」と思っています。



夫婦で力を合わせて決勝まで踊りきった。



## ペタンク 「かいじ」チーム(監督兼選手)

おおく ぼかず お

大久保一雄さん 71歳 ●参加歴：5回目

### メンバーに恵まれ、5回目の参加で全国制覇

私は、ペタンク競技に3人で参加してきました。ペタンクを始めて20年程になります。わんりんピックは、今から10年程前、北海道での大会に参加したのが初めてで(ペタンクは、毎年続けての参加はできません)、宮城県、栃木県、長崎県、今度の富山県と5回目です。参加するたびに地元の皆様をはじめ、他県の皆様と親睦を図りながら、地元の名産をいただいたり、名勝の見学をさせていただいたり、楽しんでいます。

今回のとやま大会は、全国47都道府県に政令指定都市を含めて67チームの参加で、全国制覇(優勝)をさせていただきました。今まで、ベスト8まではいったことがありますが、もちろん優勝は初めてです。ペタンクは、3人で競

技しますので、メンバーにも恵まれ、また、運も実力と申しますか、自分自身でもビックリでした。

普段は地元のメンバーと週3回程楽しくペタンクの練習をしています。山梨県の大会はもとより、関東近県の大会にも出かけて、皆様と親しくなっております。ペタンク競技には、日本選手権という全国の都道府県の代表を集めた大きな大会があり、この大会にも山梨県代表として何度か参加させてもらっています。ペタンクの競技は、単純ですが奥が深くおもしろいです。年齢に関係なく誰でも参加でき、そんなに広い場所がなくても練習ができます。皆様も一度練習をしている風景を見かけたら、お声をかけてください。一緒にペタンクをやりませんか。



優勝を喜び合ったチームメンバーと。(左端)



山梨県選手団の入場行進。「風林火山」ののぼりが目を引いた。



## 水泳 平泳ぎ 25m・50m 「長野県」チーム(選手代表)

こごしなおこ  
小越尚子さん 66歳 ●参加歴：1回目

### 大舞台で自己ベストを記録！100mレースにも意欲

「60歳以上が出られるミニ国体に出てみたら？今年も富山市でやるけど、いい街よ」。ジャパンマスターズ短水路大会で、水泳仲間から紹介された。それが私の「ねんりんピック」との出会いだった。

長野県水泳連盟では私が初めて、1人での参加という。主人の仕事の都合でこの4月から長野県に引っ越してきたばかりの私は、こうして長野県のユニフォームを着てねんりんピックに参加することになった。

いよいよ11月2日、富山へ出発の日。バス3台を連ねて富山に向かった。他の競技参加者は、私が1人で参加しているとわかると、少し驚き、そして優しく輪に入れてくれた。

開会式当日は、晴天そのもの。競技場への入場行進、炬火点灯、そして民謡や越中太鼓、チアリーダーや太極拳の演武見学等、盛り沢山。競技場の周りには、たくさんのテント村ができていて、見て歩くのに楽しかった。

水泳会場は富山市民プール。きれいで、ゆったりしていて、泳ぎやすい。おもてなしコーナーでは、豚汁やすり身汁、コーヒーなどのドリンク類も無料でふるまわれた。また、理学療法士の皆さんがマッサージ等の調整をしてくれた。至れり尽くせりの大会なので、自己ベストが出た。平泳ぎ50m 1位。平泳ぎ25m 2位。

水泳交流大会へお願いが2つ。最近のシニアは元気。是非100mのレースも組んでほしい。そして

80歳以上を一括にしないで、80～84歳、85歳～89歳の枠も作ってほしいなと希望します。

競技の間をぬって、富山県立美術館を見学。ねんりんピックのIDで入場無料。大通りでは街頭にねんりんピックの旗がはためき、歓迎されているなど感じた。

福島県代表の相楽さんと、試合後高岡市を観光。国宝の瑞龍寺の伽藍の存在感に圧倒された。そして万葉線に乗って、格子戸の街並みの金屋町や土蔵が並ぶ山町筋を歩き回った。

お土産を買うのに忙しく、飛び乗った新幹線で食べたお寿司がキトキト。ねんりんピックに来てよかった、楽しかった！友人とビールで思わず乾杯した。

ねんりんピックは、3泊4日以上の新幹線だけに他の競技の方々や、他地域の選手ともゆっくりお話してきた。皆さんの前向きな姿勢から挑戦する勇気をいただいた。長野県長寿社会開発センター職員の方々、そして富山の皆様ありがとうございました！



表彰台の一番上に立つ小越さん。(中央)



高岡観光も楽しんだ。



## ウォークラリー 「さいたま市」チーム(選手代表)

もり たますゆき

森田 益行さん

77歳

●参加歴：8回目

## 大自然の難路を完歩し、諦めていた入賞に歓喜

ねりんピック富山2018のウォークラリー大会会場は、町内いたるところから立山連峰が望めて「絶景の宝庫」と謳われている自然環境の素晴らしい立山町で、山歩きの好きな小生にとっては最高の舞台であり、立山町の魅力的な自然をたっぷり味わえるとワクワクしながら参加した。

競技当日、やや曇り空のなか、開始式会場であるグリーンパーク吉峰のよしみね交流館前に集合、ゼッケン、コマ図、記録表などを確認し、開始式終了後、午前10時ちょうどから、いよいよゼッケン番号順にスタート。我々さいたま市チームはゼッケンナンバー16で、午前10時15分に大勢の関係者や地元の人たちの大きな声援を受けながら、5人全員でエイエイオーの掛け声勇ましく元気一杯スタートした。

コースは森林研究所を中心として起伏があり、時間が相当読みづらく、道も未舗装のところが多かった。前半コマ図4の川の表示箇所が見当たらず、700mか800mほど先まで進んでしまい時間をかなりロス。課題には立山町らしい切り株から樹齢を読み取るなど、植物や森林研究所関係のものが多く興味深く楽しむことができた。残念だったのは、課題得点の大きなポイントであるゲームの「輪投げ」で、軽い輪の感触が十分掴めないままトップで投げた小生から入らず、メン

バー5人とも誰も入れることができなかったためこの得点は0と、万事休すの思いでゴールに辿り着いた。

この大会で驚かされたのは、競技説明でお話はあったものの、競技途中でクマよけのための爆竹の音を何度か聞いたことだ。このコースが熊の生息域という大自然の懐での競技であることに気づかされ、あらためて身の引き締まる思いがした。

午後2時から表彰式が始まった。時間得点と課題得点ともミスがあり、とても入賞は難しいと思っていたが、高齢者の部で最初の入賞チーム発表で「10位、さいたま市」と呼ばれた時には、メンバー全員で躍り上がって喜びあった。併せて発表にあった高齢者の表彰でも、高齢者賞は受賞するだろうと思っていたメンバーの中心である大久保慶子さんが、最高齢者賞を受賞できた。今回の立山町での大会がメンバー5人にとって喜びの大きい忘れがたいものになった。



チーム全員の力を合わせて10位入賞。(左端)



## テニス 「さいたま市テニス協会」

いし だ た つ お

石田 達雄さん

70歳

● 参加歴：1回目

### 銀メダル 感動の記憶

それは、悔しくとも楽しい感動的な時間でした。

富山県大会でのさいたま市の戦績は、予選リーグ、滋賀県1-2、香川県3-0、富山県3-0、第1戦の滋賀県に負け2勝1敗となり、2位リーグへ進む事となってしまいました。「一位リーグへ進もう」を合言葉にしてきた私たちは、その瞬間、笑顔が消え、会話が止まり、そして、冷たい富山の風が体の中を吹き抜けていったのです。それは衝撃的な時間でした。

“この戦い、緊張感は半端ないって!!”

こうなりゃ2位リーグ優勝を狙うしかない、このままじゃ埼玉には帰れない。エイエイオーと円陣を組んだか定かではありませんが、誰もがそんな気持ちになっていました。

翌日開催された2位トーナメント戦では、前日の悔しさを胸に秘めていましたが、試合には穏やかな気持ちで臨むことができました。第1試合長野県を2-1、次の秋田県を2-1、そして第3試合山口県を2-0、と撃破。とうとう、決勝戦まで勝ち上がってきていました。

念願の決勝トーナメント優勝まであと1つ、対戦相手は、本大会優勝候補の1つと噂されていた神奈川県。なぜ2位リーグにいるのか不思議な思いでした。相手に不足はないと闘争心がフツフツと湧き、力の限り戦ったのを覚えています。結果は惜しくも0-2、負けてしまいましたが心残りは全くありま

せん。決勝戦、第1戦の相手は、全国ランキング4位の強者。ベテランJOPの点数は2000点を超えていました。勝つことができませんでしたがなぜか爽やかな気持ちでした。全国大会になると、こんな相手とも対戦することができ、楽しかった思い出です。

我がチームは決勝戦まで7試合を戦い、2位リーグ準優勝を手に入れました。最後は、全員が表彰式に出席し銀メダルを授与され、なかなか気持ちのいいものでした。このころになるとメンバーの緊張感も溶けて、皆の顔には笑みがこぼれていました。

“力の限りを尽くし、も～満足って感じです”

これで、大手を振ってとはいかないかもしれませんが、胸を張って帰れると皆が感じていました。満足感に満ちた笑顔は素敵です。そして、とても印象的でした。健康な毎日を過ごし、テニスの腕を磨き、またいつかこのねんりんピックに参加できたらいいなと思います。



表彰式会場にて笑顔あふれる仲間たち。(右から2人目)



## 健康マーじゃん 「横浜健雀」チーム

まつおか とおる

松岡 徹さん

70歳

● 参加歴：1回目

### トップ3が肉薄する戦いを制して金メダルを獲得

東京駅で見送りいただいた方々に別れを告げた4人は、新幹線で富山駅へ。下車後、構内の回転寿司で昼食をとり、送迎バスで宿泊先へ移動。道中で見かけた“のぼり”が我々を温かく迎えてくれた。

横浜市選手団の結団式では17種目の横浜代表約140名が出席し、各種目のリーダーがメンバー紹介と抱負を述べた。我が横浜健雀チームリーダーの工藤氏は、皆さんからのパワーをいただくことを懇願し、結果的にはこれが功を奏した格好である。

翌日は富山県総合運動公園陸上競技場で開会式があり、翌々日の11月4日はいよいよ団体戦の本番である。会場はアルビス小杉総合体育センターで、手積み用の四角いグリーン70数卓が整然と選手一同を待っていた。1回戦開始直後、場内アナウンスで役満の第一報が流れ、「横浜市の……」と言われた瞬間、プレー中の私達は聞き耳を立てた。

「横浜市の富樫氏、四暗刻……」

……私は、鳥肌が立ったのを覚えている。

この一報で元気づけられた我々は、1回戦では調子が出なかった中氏も2回戦・3回戦ではトップを奪い、1回戦・3回戦トップの工藤氏、1回戦トップとすべてプラスの松岡、と順調だったが、3回戦終了時で宮城県が逆転。3位の愛知県も肉薄しているという状況だったが、4回戦で宮城県の一人が大きく崩れ、我々はプラスを保ち、金メダルへとつながった。結果的には、役満の富樫氏がチーム全体の50%、残りの3人が50%を稼ぐという内容で、誰一人足を引っ張ることなく横浜市代表が栄冠を勝ち取った。

団体戦は、個人戦とは違い、チーム第一という精神が働き、無理することなく固くやるのが大事であることを痛感した。

大会終了後の表彰式も終え、アトラクションでプロと交流したり、地元の方々の踊りを見学したりと、思い出に残る楽しい富山への旅行となった。連続出場は叶えられないが、健康マーじゃんをこよなく愛する団塊4雀士は今年も横浜予選に参加している。



金メダルに輝いた4人の雀士。右端で笑顔を見せる松岡さん。



神奈川県との選手と互いの健闘を讃え握手。